

審議会等会議録

審議会等の名称	平成 28 年度第 1 回山口市立図書館協議会
開催日時	平成 28 年 6 月 2 日（木曜日） 15：00～17：00
開催場所	山口市 多目的室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	安光会長、吉村副会長、糸長委員、大野委員、重枝委員、藤川委員、田坂委員、児玉委員、原田委員、中村委員、田澤委員
欠席者	岡田委員
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	1 前回協議会での質問事項への回答 2 報告事項 （1）平成 27 年度山口市立図書館運営状況報告 （2）第三次山口市立図書館サービ計画策定及び市民アンケートについて （3）その他
内容	○事務局 ただいまより平成 28 年度第 1 回の山口市立図書館協議会を開催いたします。 最初に、中央図書館館長より御挨拶いたします。 ○事務局（中央図書館長） 一言御挨拶をさせていただきます。この図書館協議会の図書館サービス計画での位置づけでございますが、まず、本市図書館は、「出会いを大切にし、市民とともに心豊かな人づくりをめざす図書館」という目標がございます。そして、市民との協働による図書館づくりを進めるために、図書館協議会の委員の方々から、図書館サービスについて広く意見をお伺いいたしまして、サービスの内容を充実させていくことといたしております。 本日は、3 月の図書館協議会での御質問の内、回答できるものを数点、まず御説明いたします。 そして次に、昨年度、平成 27 年度の図書館に関する貸出点数等の指標が出そろいましたので、昨年度の図書館の運営状況等と合わせて、詳しく皆様に御報告していく予定としております。 また、2 年後の平成 30 年度からは、次期サービス計画による図書館運営となりますので、ただいま、次期サービス計画をにらんで、図書館の中で、市民の図書館、山口市民に支持されるような図書館サービス計画とするためにということで、アンケート調査等の準備をいたしております。 まだ、取りかかったばかりのため、本日はスケジュール程度の内容となりますが、御説明してまいります。

それでは、本日も、図書館について日頃のお気づきの点等、しっかりと皆様から御意見をいただき、意見を交換いたしまして、市内6館の図書館で連携してよりよい図書館サービスを今後も進めていけるように皆さんの意見等を聞かしていただくと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、議事の進行については、会長へお願いいたします。

○会長

本日は、今年度最初の図書館協議会でございます。皆様から、忌憚のない鋭い意見、楽しい意見、おもしろい意見、新しいアイデア、そういうものなんかをどんどん出していただきたいなと思っております。

私たち図書館協議会は、山口市立図書館のサポーターとなっておりますので、自由な意見を皆様方に頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まずは今年3月の前回の協議会での質問事項についての回答ということです。それについての御説明を事務局にお願いいたします。

○事務局

まず、1点目ですが、前回協議会のときに、阿知須地区の登録率についてお問い合わせがありましたが、40.6%となっております。合わせて、ほかの地区の登録率についても出しております。旧山口市が45.8%、小郡地区が49.8%、秋穂地区が31.9%、阿知須地区が40.6%、徳地地区が34.5%、阿東地区が24.9%となっています。

比較的古い図書館がある地区については登録率が高く、新しい地区については、少し低いというような傾向が見られるように思います。

それから、山口市全体では、山口市民の登録率となると、44.7%となりますが、その他、隣接の市町からも多くの方に登録していただいております。特に防府市、宇部市からは、4千人以上の多くの方に登録いただいております。

2点目ですが、地域館でいろいろな企画行事をする上で、予算的なものはどうかという点がありましたが、28年度につきましては、地域館1館当たり年間5万円で行事用の予算を確保しております。

これは、年間を通して図書館まつりも含めてということではありますが、5万円の範囲内で行事は可能だと思いますので、各地域館と地域の方とで一緒にやっているといいなと思っております。

3月のときに御質問があった点で、お答えできるものは以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。御回答いただきましたが、これについて何か御意見がございますか。(意見なし)

ひとまず、これはこれで置かせていただきます。

それでは、報告事項の1つ目ですけれども、平成27年度山口市立図書館運営状況の報告をお願いいたします。

○事務局

それでは、平成27年度の市立図書館の各種指標について御説明いたします。

まず、基本的な指標としまして、貸出点数につきましては、27年度の実績が147万7,011点で、前年度よりは1.7%増加しております。

入館者数につきましては、27年度実績が71万3,189人で、前年度より僅かに減っておりますが、ほぼ横ばいという状況でございます。

それから、蔵書冊数につきましては、27年度3月末で68万1,369点で、前年度より3.3%増加しております。平成29年度、目標値70万冊に向かって順調に増えております。

それから、以下のとおり、個別の事業等についての指標も載せております。図書館管理運営業務ということで、これは図書館の基本的な管理運営の部分に係る数値でございますが、山口市の市民数につきましては19万6,663人、これは平成28年4月1日現在の推計人口でございます。前年度より1.5%増えております。

開館日数が1,675日で、前年度より1.9%増えておりますが、これは26年度にシステム更新による臨時休館を実施したことによるものです。

貸出者数も、前年度より1割程度アップしております。

予約・リクエスト数は、27年度実績で19万8,060件であり、規模に比べまして、予約・リクエストがとても多い図書館と言えと思いますが、年々増えてきており、前年度より9.1%増えております。

27年度の新規登録者は5,393人で、前年度より7.2%減少しています。

次に、図書館の資料整備については、平成27年度は3万9,912冊の本を購入し、1万4,531点の除籍をしています。蔵書冊数も増えてまいり、27年度から特に除籍に力を入れていこうということで、前年度より4割近くの除籍点数の増加になっています。

ブックスタート推進事業ですが、乳幼児数については少し減っていますが、体験会の回数は85回程行っています。ブックスタートパックの贈呈率は、88.2%で、前年度より3.1%増えております。

それから、子ども読書活動推進事業です。これについては、子ども向けのいろいろな行事等を行う事業費でございます。関連して、図書館活用推進事業がありますが、これは27年度から開始した新しい事業です。この事業でも、いろいろな行事やイベントを行いますが、一般向けの行事については図書館活用推進事業で行い、18歳以下の子ども向けの行事やイベントについては子ども読書活動推進事業として、平成27年度から運用しておりますので、子ども読書活動推進事業の前年度の実績値は載せておりません。

子ども読書活動推進事業ですけれども、行事の開催回数が291回、参加者数が9,586人で、18歳以下の市民数3万4,143人の28.1%が、参加したという状況になっております。

移動図書館管理運営業務ですが、これは移動図書館ぶっくん2台の管理運営に係る事業でございます。平成27年度は、36箇所のサービスステーションを268日間程巡回しております。

貸出数が2万8,419点で、前年度に比べ0.7%の増加、移動図書館利用者数は1万2,387人で、前年度より大きく3割程度増えております。

阿東地区等で、サービスステーションの見直しを行ったこと等も影響していると思っております。

それから、学校図書館支援サービス事業ですが、学校図書館への団体貸出用の図書の購入が27年度は875冊でございます。

学校に団体貸出で配送している、図書の利用冊数が3万8,052冊であり、前年度よりわずかに増加しております。

学校図書館での児童生徒1人当たりの貸出冊数が32冊となっており、前年度より1冊増えているところでございます。

次に、新規事業の図書館活用推進事業ですが、行事の開催回数が95回であり、やまぐち歴史講座等、たくさんの行事を行ったことにより、行事の参加者数が1万1,514人となっております。

また、成果指標として、山口市民の図書館利用カード登録率、を設定しており、これは44.7%でございます。

27年度実績の左側に29年度の目標値を載せておりますが、この目標値に向けてさらに努力してまいります。

資料3につきましては、館別の数字を載せております。

貸出点数につきましては、特に小郡図書館の貸出実績が増えており、特に移動図書館も増えております。地域館も増えているので、近くで借りる方が増えたのではと考えております。

それから、入館者数につきましては、増えた図書館、減った図書館がございます。徳地図書館と阿東図書館につきましては、入館者が少し減少しております。ただ、貸出点数は、徳地図書館も阿東図書館も増えております。

蔵書冊数については、各館とも増えております。

開館日数は各館増加しているのは、26年度のシステム更新の臨時休館が影響しております。阿知須図書館については、蔵書点検をシステム更新中に行ったために、前年度と同じ日数となっています。

その下に、1日当たりの貸出点数、1日当たりの入館者数を計算したものを載せています。

次に、平成27年度の山口市立図書館の運営状況について御説明いたします。

27年度山口市立図書館全体の概況として、3点ほど説明いたします。

まず、27年度は、市役所内部での連携の強化を行いました。健康増進課と連携したウォーキング教室や、文化財保護課と連携したやまぐち歴史講座など、他部署と連携した企画に力を入れて行ったところでございます。

また、学校図書館支援に関しても、所管する学校教育課と昨年度より定期的に協議を行うようにしており、より有意義な支援ができるような取り組みを行っております。

2点目として、27年度は将来へ向けた対応の実施や課題の調査研究を進めてまいりました。

利用者の利便性向上や大学連携の促進の一環として、山口大学・山口県立大学の図書館と連携しまして、昨年8月より、相互の図書館で本の返却を受けることとしております。

中山間地での本を通じたコミュニティ形成の試みとして、2月より、阿東地域の地域交流センター分館への配本を開始しております。

それから、中央図書館では、昨年度に引き続き、7、8月の夏季開館時間延長の試行を行い、利用状況の調査を行ったところでございます。

加えて、26年度に引き続き、総務省の地域情報化アドバイザーを招聘し、27年度は議会・行政支援サービスについて研究を行ったところでございます。

3点目は、業務執行体制の充実でございます。正規職員に合わせて、非常勤職員についても積極的に研修に派遣しております。特に県立図書館で実施されるような研修につきましては、積極的に非常勤職員も研修に派遣しているところでございます。

また、中央図書館では、選書委員会の委員で行う選書についても、しっかりできるように、委員ごとに担当分野を設定し、選書とともに除籍も委員の責任分野を明確にして取り組んできております。

では、2番目の館別の概況ですが、中央図書館については、特に図書館薩長同盟の開始ということで、イベント行事を盛んに行っております。

次に、小郡図書館につきましては、特に図書館友の会 鉢の子との共催講座の定期開催と、友の会等との協働推進、共催事業の推進を図ったところでございます。小郡図書館は、12月に入館者100万人を達成しております。

秋穂図書館につきましては、開館5周年の記念事業を行っております。

続いて、阿知須図書館は、新たな利用者を発掘するため、特に、図書館まつりの時には、図書館内でリコーダーや三味線などの音楽会を行ったところです。

それから、徳地図書館については、郷土の歌人の事跡調査への協力というのを行っております。また、ストーリーテリング講座など、子ども向けの行事も盛んに行ったところでございます。

最後に、阿東図書館については、先ほどもございましたように、交流センター分館への配本を開始しております。

ここまでは、全体的なこと、館別の事ということで説明してきましたが、次に、事務事業別に御説明したいと思います。

まず、27年度は、中央図書館のBDSという本の持ち出し防止装置の更新と、児童コーナーの照明の改修を行っております。

	それから、図書館協議会は、昨年度は3回、行っております。 次に、移動図書館の管理運営に関しましては、貸出冊数が前年度よりわずかですが、増えております。28年度からですが、サービスステーション数を36から39に増やしております。 図書館資料の整備につきましては、先ほど指標で説明したとおりでございます。 学校図書館支援サービス事業につきましては、モデル校として小学校2校を決めておりまして、これに学校図書館指導員を派遣しています。この点は、学校図書館支援サービス事業の一つの特徴的な点でございます。 出前ブックトークも学校からの求めに応じて頻繁にやっております、27年度は延べ27回程行っております。 職場体験やインターンシップの受け入れについても、学校図書館支援サービス事業の一環として行っているところでございます。 それから、ブックスタート推進事業につきましては、先ほど贈呈率の数値はお示しましたが、参加率は73.7%となっています。 この贈呈率と参加率の違いですが、体験会に参加していただいた方を参加率としております。また、贈呈率は、来られていない方についても、希望をとってブックスタートの趣旨を添えてブックスタートパックの郵送も行っており、これが8割以上となっております。 子ども読書活動推進事業といたしまして、本市では「12月に山口市はクリスマス市になる」というイベントがございますが、これに合わせて、さいとうしのぶさんの絵本ライブ等を行っております。 それから、絵本の読み聞かせ講座を27年度は阿東図書館でも行っており、中央図書館と合わせて2回を行っています。 図書館活用推進事業につきましては、27年度の新規事業ですが、新たな利用者層拡大に向けた行事等を多数実施しています。減少傾向にあった図書貸出点数も、僅かではありますが、全体では増加の傾向に転じており、この事業の一定の成果もあったのではないかと考えております。 資料4に各種の主な指標の過去6年間の推移をグラフにしております。まず、市立図書館全体で見た入館者数、貸出点数、蔵書数については、ご覧のとおりとなっています。 入館者数、貸出点数とも、平成23年度をピークとて、入館者数については、僅かですが、減少傾向にあります。 貸出点数については、減少傾向にあったのですが、27年度については、僅かですが増加に転じている状況です。 蔵書冊数については順調に伸びており、平成29年度の70万冊の蔵書冊数の目標は、十分達成可能であると考えております。 館別の貸出点数と入館者数の推移についてグラフでお示ししております。中央図書館、小郡図書館、秋穂図書館、阿知須図書館、徳地図書館、阿東図書館と館別に
--	---

お示ししています。

ちなみに、秋穂図書館は、平成22年の8月開館、阿東図書館については、平成25年8月に新館が開館しております。以上で、運営状況についての報告を終わります。

○会長

どうもありがとうございました。昨年度の図書館の運営状況ということで報告をいただきました。

最初に、全体の概況と館別、それから事務事業別ということです。ただ、指標についてですが、それぞれの館について、利用促進はして欲しいと思いながら、何か無理やり数値を高めるということは少しどうかとも思っております。数値目標は数値目標として、伸び伸びと図書館活動ができるように思ったりしております。

その意味でも、もう少しこの部分の詳細を聞きたいなということがあれば、ご質問をお願いします。

○委員

資料2の各種指標というところで、ブックスタート推進事業の、ブックスタートパックの贈呈率が、29年度の目標が27年度より下げた数字になっていますが、最終的に贈呈率を下げた目標というのは、どうなのかという質問が一点目です。

もう一つは、子ども読書活動推進事業で、18歳未満の市民の参加率が28.1%になっていますが、数字だけ見ると、大人の3分の1ぐらいが、何かに参加している感じですが、実際に裾野が広がっている感触があるのかどうかということです。人数はそこそこですが、もっと開拓の余地があるのかということを少しお聞きしたいと思います。

○会長

それでは、事務局からお願いします。

○事務局

1点目でございます。この29年度の目標値については、これは山口市の総合計画と連動したものでございます。この29年度までの目標値は、山口市総合計画の後期まちづくり計画と連動している数字でございます。その目標数値を目指し、事業が順調に進んできたので超えている現状がでございます。ただ、この数値は現時点では変える時期ではないので、そのまま入力いたしております。

2点目の質問ですが、平成27年度から図書館活用推進事業という形で大人向けの読書推進事業を立ち上げております。

一昨年度までは、子ども読書活動推進事業の中で、子どもと大人を含めて事業を行い、参加にかかるカウントをしておりました。しかし、昨年度からは、子どもを中心の事業と、大人の方に、もちろん高齢者も含めて図書館を活用してもらうための、いろいろなイベントに取組み、利用者を増やしていくことに取組んでまいりました。実際に裾野が広がっている感触があるのかどうかというご質問ですが、感触として、実際に裾野が広がっていると思っております。

こどもワイワイ図書館も昨年度から6館連携で開催し、大人も含めて多く参加者を集めてきております。

大人が主体で、子どもたちも参加していただく歴史講座等のイベントもいろいろ行っていており、子どもも、大人の方と一緒にの行事に来られますので市民の図書館利用の裾野というのは、確実に広がっていると捉えております。

また、移動図書館の利用者の指標がぐっと伸びておりますのは、臨時運行という形で、地域のお祭り等に積極的に出向いて行っております。図書館サービスのPRを行う臨時運行ですが、そのときには、移動図書館に子どもがたくさん来られて利用していただいております。そういうような形で、図書館と子どもとの接点は、確実に広がってきていると思っており、今後も一層、広げていきたいと考えております。

○会長

よろしいでしょうか。図書館まつり等では、ぶっくんが走っていますので、それはまた新規開拓ということにはなっているかと思えます。

ここで、私がお聞きしたいのですが、ブックスタート事業については、市立図書館としての方針では、贈呈することに主眼を置いているのですか。それとも、体験会に参加していただいて、実際に手渡すことですか。私は実際に手渡すことに意味があると思うのですが。このことについていかがですか。

○事務局

図書館サービス計画は、ブックスタート体験会参加率の向上を掲げており、実際にブックスタート体験会に来ていただいて、司書と面と向かって、子どもに読み聞かせをする様子を見ていただくのが、一番効果があると思っております。

しかしながら、今は働くお母さん方が多く、ちょうど乳児が5ヶ月になるころには仕事に復帰される等、いろいろな理由でブックスタート体験会に来られないケースが増えていることを内部で検討いたしました。

そして、ブックスタート推進委員会にもお諮りし、そのような親御さんに、ブックスタート事業の仕方や意義もしっかりとお伝えできるパンフレット等も添えて、お母さんの希望を確認して、郵送等により贈呈する取り組みも行ってきたところでございます。

○会長

わかりました。次の委員からお願いします。

○委員

私もブックスタート推進委員をしているので補足ですが、まず対象の方のお宅に伺いブックスタート体験会のお話をします。そして、体験会に来られなかったら、再度来ていただくように伺います。それでも来られなかったら、再度、郵送もできますがいかがですかというお返事をいただくような形にしているので、もういきなり来られない方に郵送ではなく、あくまでも体験会に参加してもらうということに重点に置いており、どうしてもという方の対策となっています。

○会長

それでは、ほかの意見はありませんでしょうか。どうぞ。

○委員

ブックスタート事業ですが、阿知須地区だったら、乳児健診のときに、保健センターの部屋で渡しているようなのですが、旧市内はどうですか。

○事務局

旧市内では、育児相談と同日程で行っているのは、仁保、小鯖、湯田、白石、大殿と南部地域がございます。旧市内のそれ以外の地域は、ブックスタート体験会を図書館単独で行っております。

まず体験会への案内をいたし、来れない方には、幾度かご案内をし、それでも来られない方に対しては、中央図書館で土日開催で行う体験会にご案内いたします。

それでも来られない方がやはりいらっしゃるの、それはブックスタートパックを受け取るだけですが、各図書館等に受け取りにきてもらっております。

しかしながら、それでも来られない方には、もう一度郵送でアンケートをとりまして、興味があるがどうしても来れないという方には、パンフレット等でブックスタートの仕方などをしっかりと伝える文書を添えて本と一緒に届けております。

○会長

そうなのですね、いろいろ御苦労なさっているのですね。

○委員

秋穂地区ですが、健康福祉の関係ですが、27年度から2カ月に一度、保健センターであります。それまで毎月、母子相談の育児相談があるとき、要するに毎月ブックスタート体験会を行っていました。しかし、去年から2ヶ月に一度では参加できない方がある場合があるので、27年度からは、偶数月は保健センターだけど、奇数月は図書館で開催し、毎月行うことにしております。だから、おかげさまで参加率は100%となっています。

○会長

ありがとうございます。他のご質問はありませんでしょうか。どうぞ。

○委員

前回、昨年度の協議会の中で、少し話題になったと思うのですが、地域資料を充実するということですね。

サービス計画を検討した時に、特に阿東だとかだったら、地元の方が持たれているようなものを利用するとか、そんなことが少し言われていたようなことで記憶しておりますが、昨年度の推移の中で、どのような状況になっていますでしょうか。

○会長

地域資料については、サービス計画にありますので、指標はこの中に入っていますが、例えば阿東地区であれば、大野委員の作品が、NHKでも放送されており、後世に残していくものをもって下さっておりますね。いかがでしょうか。

○事務局

地域資料の指標といたしましては、地域資料点数ということで、平成26年度末が2万3,507点、平成27年度末が2万5,371点であり、約1,800点程度増えているところでございます。

指標としては順調に伸びておりまして、例えば昨年度、大野委員からご自分で撮影された地域にちなんだDVDを寄贈いただいたりしたこともございますし、地域資料の収集を重点的に行ってきたところでございます。

また、本年度の取り組みとしては、前回、3月の図書館協議会での地域資料にかかる積極的な資料収集の御意見もいただきましたので、その後、資料担当とも話し合いまして、新聞に載っただけで、なかなか手に入らないような地域資料についても、積極的な収集を行っていくようにいたしてまいります。

○会長

ほかには何かありますか。どうぞ。

○委員

これまで行事を行うのに、何を基準に開催されるのかをお聞きしたいと思います。それは、図書館側が、こういうことをやりたいという思いで行われるのか、それとも、その地域地域で、こういう事業への利用があるのではないかとということを含み取って、最近の利用者の関心がこういう事にあるから、こういう行事を組んでみようと考えておられるのかです。今までその行事を組まれるときに、重点的に考えられたことは、何なのかということをお聞きしたいと思います。

○会長

各事業や行事を行われるときの基準ですね。今、どんどん打ち出していらっしゃるということは、素晴らしいことではありますが、今は特に薩長同盟ということで、それに取組んでおられますが、何か基準みたいなものがあれば教えていただければということですが。

○事務局

図書館薩長同盟というのは、ちょうど明治維新後150年が、もうすぐ2018年にまいりますが、山口県下一斉の取り組みで県を中心に各市町も協力して取り組んできております。観光の振興も含めての施策が、県下でたくさん企画されているのはご存知だと思いますが、教育委員会としても、そればかりはございませんが、行事の中では、県下の取り組みを考慮し、市の関係部局とも連携し、取り組んできております。

図書館としては、この取り組みに合わせて読書推進につなげてまいりたいので、明治維新の頃の小説や話題となる本等、また人物などにも視点をあてて、市民の地域資料の活用促進も視野に入れて、山口市にゆかりのある方の本なども、読む機会がなかった市民にも読んでもらえるような取り組みにつなげてきております。

幕末小説人気番付の企画では、多くの中学生が読書をするきっかけにもなったと学校の先生からも伺っております。

子ども関連の企画については、継続性も大切なので、クリスマスとか季節による

ものや、毎年取り組んでいる行事は大切に、好きなお話の絵の企画等、子ども関連のイベント類等は年間計画の中で基本的には継続的な行事として取り組んでおります。図書館薩長同盟のようなタイムリーな企画と基本的で継続性のある企画を組み合わせて、現在の図書館活用推進事業の中で組み立てております。

本年度も、市民の要望を企画に取り入れるために、いろんな方面にアンテナを張って、市役所内の各部署と連携することによって、各部署の成果も上げるとともに、図書館の使命である読書推進を進めるため、いろいろな図書館資料を知ってもらうきっかけにつながる事業を組んでまいります。

利用者也40%台の登録率で固定化してきている課題を、これが5割、6割と登録率が向上していくような、そういう図書館利用のきっかけにつながる行事を組んでまいります。

○会長

いかがでしょうか。何かまたアイデアがあればお願いします。

○委員

本当に市の他部署との連携ということも大事であり、バランスの問題にもなると思うのですが、例えば学校図書館支援サービスに関しても、これはずっと団体貸し出しという事が続いています。実際、学校現場で、こういうサービスをして欲しいという声と、図書館側からこうしたいという意見を交わしながら、一方的にこういうサービスしますということではなくて、その現場だとか利用者の方とニーズの調整というか、そういうこともしておられるでしょうけれども、大事なかなと思います。

○事務局

今の学校図書館支援サービス事業の中での配本サービスは、平成21年度から取り組んできた事業でございますが、学校図書館の担当と話す中でも、当初に比べて学校の先生方からの御要望もいろいろいただき、要望を踏まえた配本サービスができるようになってきたと思っております。

セット化した、団体貸出の資料では、原爆や、いろいろなテーマでセットを作っておりますが、それも皆、学校現場からのご要望を考慮して揃えたものとなっております。学校現場の先生方等と、常日頃から意思の疎通を図ることに努めてきており、教科書改訂のときなどは、特にいろいろなご要望をいただいております。

今後も学校現場の先生方と連携を進めてまいるとともに、学校から求められるブックトークの司書派遣も、とにかく断らないで必ず行くという方針で、図書館の司書が出向いてまいります。

○会長

まだまだあると思いますが、次の事務局からの報告を聞いて、全部まとめて、皆様方から御質問を受けたいと思います。

次の第三次山口市図書館サービス計画策定及び市民アンケートについてです。

この御報告を受けながら、また、全部含めて御質問を受けたいと思います。では、

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

現在、第二次山口市立図書館サービス計画に沿って、各種事業を進めているところでございます。第二次計画が、平成29年度までとなっておりますので、平成30年度以降のサービス計画について、新たに計画するための準備にかかるものでございます。

平成30年度からのサービス計画策定については、資料5のようなスケジュールで進めたいと考えております。図書館協議会の皆さんにも、折々で御意見等を賜りたいと考えております。

まず、第三次山口市立図書館サービス計画は、平成30年度から5年間で考えております。

まず、28年度は、本日ですが、6月、第1回図書館協議会で、新サービス計画策定スケジュールの説明をいたします。

7月下旬から8月にかけては、市立図書館に関する市民意識調査アンケートの実施をまいります。これについては、18歳以上の山口市民約2,000人を住民基本台帳のから無作為で抽出いたしまして、郵送でアンケートをしようと考えております。

このアンケートの内容等については、まだ固まっておりませんで、お示しできる段階にはないのですが、今の段階でお話しできるものとしては、まず、アンケートの内容については、市民の図書館の認知度や現在の図書館に対する評価、それから今後の図書館に期待する役割を把握したいと考えております。

具体的には、設問内容としては市立図書館の利用頻度、利用しないという方もいらっしゃると思いますので、利用しない場合の理由、それから、もし利用されている場合はその利用目的、利用された場合の満足度、それから、今まで利用していた方も、利用していない方についても、今後の図書館に求める機能や役割、これらについて設問を設定して、アンケートをとりたいと考えております。

前回の図書館協議会のときに、市民の情報行動についても、設問を入れるのではないかという御意見があったかと思いますが、設問数と予算等の兼ね合いもございまして、設問数もどうしても限られてきているということもございまして、その点については設問に入れ込むことができるかできないか、今はまだ検討中ではございますが、目的が達成できるようなアンケートにしたいと考えております。

それから、第2回の図書館協議会については、ことは10月に開催したいと考えております。

そのときには、アンケートの分析結果を図書館協議会の皆さんにお示しして、皆さんのコメントをいただけたらと考えております。

それを受けて市民アンケート結果の一般公開をしまして、本年度末の第3回目の図書館協議会のときに、次期サービス計画の骨子、骨組み部分の事務局案を図書館協議会にお示しできたらと考えております。そこでまた、いろいろな御意見を賜り

たいと考えております。

年度が変わりまして、29年度には5月に第1回の図書館協議会で、再度、サービス計画骨子の内容、それからもう少し細かい点、検討を進めているという点について、協議会の皆さんに御説明したいと考えております。

それから、2回目の協議会を9月に行いまして、そのときに、次期サービス計画の素案について事務局案をお示しして、御検討いただけたらと考えております。

なお、図書館協議会以外にも、教育委員会への説明や、市議会への説明等の手続きもございます。それらを伺った上で、29年の12月にパブリックコメントを行いまして、29年度の末、多分、2月に第3回図書館協議会を行うようになるかと思うのですが、このときに、サービス計画の最終案についてお示し、御検討いただき、了承をいただくという形です。その後、市の教育委員会定例会での承認、それから経営会議での決定という形で、29年度3月に、新しいサービス計画を決定するという流れを現在のところ考えております。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。30年度からの計画のために、今年度、アンケート調査を行い、今年度中に骨子案を作り、来年度は素案を作ることになってまいります。

アンケート調査については、利用者はいいですが、利用しない人については、どうして利用しないのかなと前から私も思っておりました。利用したくなる方法などが見つかるといいなと思います。

アンケートについては、今、作成中であり、8月に実施予定。もう10月には、分析も全部しているということになっているのですね。

○事務局

はい、そうなります。

○会長

8月に、アンケートが私どものところに届けばいいのですが、2,000人だから、私どもには、サンプリング調査が来ないかと思っておりますので、一度、図書館協議会委員に見せていただくと、こんなものがそれぞれのところに行くかなということ がわかればと思っております。

事前に意見の反映にまではならないかもしれませんが、そのようなことは可能でしょうか。

○事務局

それでは、アンケート設問がほぼ固まった段階で、各委員にお送りをして、こういう形でアンケートをしますということをお示ししたいと思っております。

○会長

よろしくお願いします。今からつくられるアンケート項目というのは、かなり時間をかけなければならないと思っておりますので、ぎりぎりまで御検討をいただきながら、協議会委員にも送っていただければと思っております。よろしくお願いします。

それでは、2つの報告事項を事務局から御説明いただきました。何かご質問はございますか。ではお願いします。

○委員

先ほど各種指標の説明中で、図書館資料整備事業で除籍に取り組んでいくように言われていましたが、除籍というのは、どれぐらいのときに除籍になるのでしょうか。

あまり除籍に取り組みますと蔵書冊数が減るのではないだろうかと思いますが、そのあたりについて少し説明をお願いします。

○会長

除籍・廃棄基準についてだと思います。そのあたりの説明をお願いします。

○事務局

除籍につきましては、山口市図書館資料除籍要綱により行っております。

なお、雑誌については3年保存と決めて、それを超えると除籍いたします。

本については、特に地域資料等は、原則として除籍はいたしません。それから、本については、時事性の高いものについては、特に内容が古くなったものについては、除籍検討委員会を設置し、除籍をするようにいたしております。具体的には、除籍委員会の委員が責任分野を持って選定して、除籍検討委員会で協議して除籍を決定いたしております。

地域館についても、地域館の中で、選書と同じように除籍する候補を選定し、中央図書館の除籍検討委員会で決定することで行っております。

○会長

私も、除籍については慎重であれと私の研究方針としてはそうっております。

今、お聞きすると、複数の目で見ていると言われておりますので、その辺は今後とも慎重をお願いします。

ただ、1つだけ、県立図書館にあるのかとか、間違っているには間違っている理由があり、現在はこうなったとかいうことも必要だと思うので、市立図書館はそこまではということもあるかもしれませんが、県立図書館にあるかということも、1つの視点に置いていただければと思います。ほかに何かございますか。

○委員

指標の山口市民図書館利用カード登録率についてですが、行事などを通じて、利用カードの登録率向上に努められていると伺っておりますが、私は、何年か前にこれについて、子どもたちの登録を進めてほしいということで、学校での登録ができないかと話をして、そしてそれが実現されたという話をこの前に伺って、あと個別に、図書館友の会トネリコを通じて、もう少しその裾野の広がりにつながる利用者講座を今度、6月くらいからしていくようになっておりますが、各館ではそれぞれ、利用、登録される方々の傾向等、例えば阿東図書館では高齢者が多いなど、いろいろな特性があると思うので、それぞれの館での登録増の取り組みやいいアイデアを持っていらっしゃると思います。

○事務局

中央図書館でございます。昨年度、山口市PTA連合会という保護者の組織がございしますが、総会に出席させていただきまして、子ども達や保護者の図書館利用カードの登録のお願いをするとともに、小中学校の校長先生をお願いをして、学校を通じて利用カードの登録のお願いをいたしたところでございます。

阿東地区では、以前から、学校を通じてほとんどの子ども達がカードを持つような取り組みを行っていましたが、昨年度、市内全域で、学校に間に入っていて利用カードを作ってもらう取り組みを行っております。

実績といたしましては、中学生は小学生の頃から持つ機会がございしますので、多くの生徒が利用カードを持っておりましたが、小学生に対しては、この取組みにより、多くの子どもたちに利用カードを持てることができました。このような取組みをまた継続できたらいいなと思っております。

○会長

ほかの方、別に御質問でも結構ですし、何か利用者の裾野を広げるいいアイデア等がもしあれば、合わせて言っていただければと思います。他の事でも結構でございます。はい、どうぞ。

○委員

小学生の子どもたちがカードを作る場合、どうやればいいのでしょうか。

○事務局

例えば小学生の場合、本人確認が問題になると思うのですが、学校の名札を本人確認に利用しているということはございます。それから、例えば保険証とかそういうもので本人確認をしております。

○委員

図書館に子ども達が自分で行って作るのですか。

○事務局

そうしていただいております。

○委員

朝、見回り隊のときに子どもに、自分の図書館の利用カードを作ったらと言ったら、面倒くさいからできん、と言っていました。学校で、希望者を集めたら、簡単にできるのではないかなと思いますが。

○事務局

昨年度の取り組みが、そのような子ども達のために、校長先生が間に入って下さって、学校で申請書を集めていただいて図書館に送ってもらい、利用カードを配っております。

○委員

学校で生徒全員に利用カードを配ることはできないのですか。

○事務局

全員につくってもらう時も、やはり申請書を出してもらうようになります。

○会長

ただ、単に利用カードを作りますということだけでなく、出張してその場で子ども達に申請してもらって、その場で発行することも考えていただけたらと思います。

○事務局

はい、検討してみます。

○委員

例えば3年生ぐらいの子どもたちが図書館によく見学に来ますよね。そのような時に利用カードをつくれるのですか。

○事務局

阿知須図書館からですが、昨日、小学2年生の97名が見学に来られました。

カードを持っているかどうかとお尋ねしましたら、ほとんどの子ども達が作っておりました。それは、先程、事務局から説明しましたように、去年の入学生でございますので、1年前の取組みの効果が出ているのかなと思います。

作っていない子どもが若干いましたが、それは名札のみですね。名札には住所も書いてありますが、ただ生年月日は書いていないので、それはしっかり覚えてきてねと伝えました。年を覚えていない子、平成何年を覚えていない子が多いのです。そういうふうにし添えて御案内もしたところでございます。

○委員

先程、図書館でブックスタートをやったりすると言いましたが、図書館利用カードを持っていないと言われたら、カウンターでどうぞお作り下さいと伝えることはできると思います。

○会長

ほかにございますか。お願いします。

○委員

2点お聞きします。私は小郡図書館の友の会で活動をいたしておりますが、市民の方数名からお聞きしたのですが、今、いろいろなシステムができ上がっており、大学図書館の本を借りると、自分が日常的に使っている図書館で、本を返すことができるような仕組みも、もうでき上がったということです。

もう一つ、県立図書館の本を、日頃、市立図書館を利用している人が、たまたま県立に行って借りたのだけど、返すときは、自分が日頃使っている市立図書館の地域館で返すことができる、という仕組みが、もうほとんど全てでき上がっていると思うのですが、実は、小郡図書館は、合併以前の状態をずっと今も保っております。

というのも、多分、近いから1本ですぐ行けるからいいじゃないの、というような感覚があったのだらうとは思うのです。しかし、いろいろな人がいらっしゃいますので、そう再々、市内に出て来れない方もあり、借りるのが面倒くさいからやめた、みたいになるのではと思います。

これは県立図書館の本を借りてくれではなくて、今、そのようにして物流が動くことによって、利用度もお互いに高まっていくという所もあるのであれば、小郡図

書館で、もし県立図書館の本の受け取りを始められると、取りに来られたときに、また、小郡図書館の本も借りて帰るといような仕組みに、どんどんつながっていくと思いました。

○会長

では、これについてはどうでしょうか。

○事務局

県立図書館の遠隔地サービスは、中央図書館と小郡図書館は県立図書館に近いということで行っておりません。また、秋穂図書館と阿知須図書館、阿東図書館と徳地図書館は離れておりますので実施いたしております。

県立図書館の本を小郡図書館で受け取ることにについては、事務量が相当ございしますので、職員を増やすよりは、その分、本を買ったほうがいい等の検討により、現在は行っておりません。

○会長

いかがでしょうか。

○委員

言われた人は、徳地図書館と県立図書館の距離と、小郡地区も幅広いので、小郡の中心ならともかく、遠く外れた小郡地区から県立図書館までは大して変わらないのではないかという話もありました。確かに、事務量がかなり多くなるだろうなという気はしますので、御検討をいただければと思います。

○会長

県立大学も結構近いですが、県立大学はできるのですね。もう少しそのあたりも御検討いただければと思っております。それでは、もう一つどうぞ。

○委員

もう一つは、良かったことなのですが、最近、図書館のホームページにレファレンス事例という窓口ができて、見るできるようになっております。レファレンスも、ある意味、重点的な課題として考えられておられたので、まず第1歩ということで、とても良かったなという気がいたしました。

これから、もう少しまた内容を精査されたり、いろんなものをつけ加えられたりというようにしていかれるのかなということを楽しみにしています。

この事例という枠は、結構、どの図書館さんの事例集を見ても、余り変わらないところが多くて、ああ、同じだなというところも多いのですが、こちらを少し見ましたら、山口市に關係するものが幾つか上がっており、これもすごくいいなと思ったりしました。

一つは、例えば、子どもに対してのレファレンスも、学校支援をなさっているので、結構あるかなと思うんですね。今開くと、レファレンスのシートが出てきて、回答が書いてあるわけなのですが、子ども向けだと、また違う考え方もあるかもしれませんので、またそういった所も御検討いただけたらと思いました。

○会長

ありがとうございます。次の委員さん、どうぞ。

○委員

この前の会議の時に、山口市が図書館にどのくらいお金を使っているのかなと見ると、2億円とか書いてあったと思います。毎年、マイナスシーリングがかかり、給料も下がるし、予算も下がっていると思いますが、やっぱり図書館だってそうなのだけど、持続可能をどうやって続けていくかということですね。

例えば、私が学校に勤めた経験から言うと、手法はどんどん変更しているのですね。図書館だって実はそうするのかなとか少し頭をかすめています。

図書館も持続可能にしていくためには、もう一つ別のアイデアが必要だなということは、委員をして1年になりますが、そういうことを少し思いますね。やはり、図書館とか教育とかは、とにかく続けていかなければならないと思います。

それともう一つは、ある中学・高校の先生が、スマートフォンにしか興味のない生徒たちを、我々はどう教育していくかということは、すごい課題だと言っていました。スマートフォンにしか興味のない生徒たちに学校で授業をし、しかも、図書館で本に親しませる、あるいは本を1冊でも読ませるということは、とても大変なんだと言っていました。

だから、図書館でも、ブックスタート事業を含め、スマートフォンにしか興味ない人たちに、どう意識を少しでも向けてもらえるようにするかということだと思います。

そして、最後ですが、高校生あるいは中学生は、漫画の歴史の本なんて借りにくいと思うのです。中学生になって漫画の歴史かとか言われるかもしれませんが、いい歴史の本もどんと出して、学校も含めて、最初は漫画でいいから、歴史の本に親しませるといいと思います。

先ほどのスマートフォンの人たちに、とにかく今、イラクがどうなっているかみたいなところを漫画で覚えさせる、漫画で勉強させるぐらいの事を、学校や地域でもするぐらいの、やっぱり意識をぐっと下げていく柔軟さも必要なのではないかと思います。以上でございます。

○会長

これは本当に考えなければいけませんね。この前、東京に行って山手線で1つのシートに10人に位座っていても、8人はスマートフォンをしていました。それは大人の世界ですが、中高校生、大学生もそうですね。

図書館の持続可能という意味と、読書というようなところは、これは私どもに突きつけられている課題だとも思っております。どうもありがとうございました。

次の委員の方どうぞ。

○委員

去年1年、委員させていただいてきて、私は市の学校図書館部会の代表ですが、今の学校は、新年度になって困っているのが、予算を削られまして、私の学校の図書費は25%カットです。それで、日本一本を読むまちを支える子ど

も達をどうやってつくっていくのかということです。

もう、調べ学習的な高い価格の本を買わないでいく形に、今から計画していくしかないなと思っています。その分、市立図書館からの団体貸出をせざるを得ないのかなとは思っています。

もう一つは、読書ノートについてです。ようやく5月に、市教委から我々図書館部会に説明がありました。その説明が、まだ形はできていないのだけど、この秋には配付するというものでした。

ただ、中学校の場合は、1年生と2年生に配付をして、使うのは来年度からでいいですよということでした。それについては、さんざん意見を言わしていただいております。

結局、その読書ノートで、何が一番、中学校として引かかるかということ、冊数を求めるということです。これは中学校の読書に関しては、やりたくないところなのです。何冊読んだから御褒美を上げますというのは、もう中学校の読書では、それをやってしまったら、本当に質は低下するし、そして、それを記録しなくてはいけないという義務が出てきたら、逆に離れていくと思うので、そのあたりを話し合いの中で言うようにしていきたいと考えています。

実際に学校では、多分、皆さんが思っているより、子ども達は本をよく読んでいます。うちの学校では、朝、15分毎日行っておりますが、本当によく読んでいます。もう1人残らず夢中になって読んでいますから、決して本が嫌いじゃないし、昼休みも、図書館の来館人数は、とても多いです。我々が学生の頃よりは、むしろ今の子たちのほうが、図書室に来ている状況です。

ただ、放課後は圧倒的に時間がないので、いろいろ追われていますから、その放課後まで読書を無理やりさせるとか、図書室や市の図書館に絶対行かなきゃいけないみたいなことは、少し勘弁してあげたほうがいいのではないかなと思います。

中学校の3年間はいろんなことをやって、また大人になって図書館に戻っておいでという形でも、いいのではないかなと思うので、一律に読書ノートで冊数を上げようというようなことは、是非やめて欲しいと思っています。

なお、図書館に行っても、本を借りなくても、行ってばらっとめくって、ああ、きれいな本があったねとか、何かおもしろい絵があったよとかで帰っていく子ども達でも、いいのではないかなという、そういう発想の転換があるといいと思います。

それから、学校図書館の支援サービスで、大変助かっているところもあるのですが、毎月、コンテナで何冊か本が学校に来ます。一月たったらお返しします。あれが、どれだけ利用されているかと、把握をされてみてはいかがかと思います。並べて、そのまま借りられずに、コンテナに入れて返すということは、申し訳ないですが中学校では多いです。

それから、どんな本を中学生が読んでいるかという把握も、必要ではないかなとも思っております。

○会長

配本されている本の選書とか、資料の選択をもう少し考えて欲しいということでしょうか。

○委員

はい。持っていない本もたくさん来るので、我々にはありがたいのですが、もしかしたら、子ども達が、あんまり望んでいない本ばかりなのかもしれないし、どうなのかなと思いました。小学校は借りられている数が多いのかもしれないですが。学校には、本はたくさんあるんですよね。となると、何もそれは要らないなというものもあるし、その辺の把握は難しいとは思いますが。

○委員

図書館に御要望を出されたりすることはないのですか。例えば小学校だったら、6年生が修学旅行に行きますというと、そこにその関係の本が送られてきて、ある小学校に先日行ったら、学年のオープンスペースのところに、大きな机がたくさん集められて、そこにたくさんの本を広げて、誰でも自由に勉強できるようにしてありました。

例えば中学校でも、先生が、調べ学習でこういうもので、こういうテーマでいうことを相談してみたらどうでしょうか。

○委員

そうですね。そういうときには、別個にまた頼む形で、毎月来るものと、テーマ別では別ですね。

○事務局

小学校のほうは結構好評で、皆さん、これはいい事業だから、もっと配本冊数を増やして続けて欲しいという要望も聞いております。

中学校についても、小郡中学校が火曜日に一般公開しているので、行ってみまして、そこで図書館指導員の方と中央図書館からの配本について話をしたことがございます。中央図書館からの配本は新しい本が多いという感想で、図書室の入口に中央図書館の本のコーナーとして上手に見せていただいております。結構、中学生に読まれているということも聞いてはおります。しかしながら、委員さんの意見については、図書館内部でも、そういう意見もあると周知してまいります。

○会長

そういうことで御検討等していただきたいと思います。次の委員の方どうぞ。

○委員

1つ目ですが、市立の小中学校、幼稚園に関しては配本サービスがいつていると思いますが、県立の支援学校には中学生の生徒もいらっしゃいますので、そこへのサービスを、実際、やっていらっしゃるかどうかということをお聞きしてみたいなと思います。

○会長

支援学校は、確かにその辺が抜けておりますね。その辺は、また御検討いただくということでもいいでしょうか。

○事務局

検討してまいります。

○委員

2つ目は、例えば阿東地区だとか秋穂地区とかは、図書館が、地域交流センターと一緒にありますよね。その地域交流センターの利用者と図書館の利用者というのは、リンクしているかどうかということですが、もしリンクしていなければ、地域交流センターに月に1回とか来られるグループの方に、ちょっと図書館の利用カードを作ってみませんか、少し働きかけると、図書館を利用される方が少しでも増えるかなという提案があります。

○会長

提案でございますね、それでは引き続きどうぞ。

○委員

3つ目は、事務事業別概況の4番目に、対面読書講座と朗読ボランティア養成講座がありまして、これは恐らく図書館のボランティアを養成するための講座だから、ここに挙げてあると思うのですが、中央図書館でいけば、あと排架ボランティアとか、補修ボランティアというのが、以前からあると思うのですが、その養成講座があるのかなのかということと、現在、人数的にどのぐらいいらっしゃるのかということです。

あと、絵本の読み聞かせ講座があつて、これは、実は違うところに挙げているように、図書館での読み聞かせボランティア養成講座とは、別の位置づけで設けられているのですよね。

ただ、この講座に参加された方が、自分も実際、読み聞かせをしたいのだけれども、どこでしたらいいかわからないと言われて、そのときに、図書館の方が、すぐに中央図書館でもボランティアを募集していますからどうぞというお返事でなかったのが、ちょっとそのあたりのボランティアの養成とその講座との位置づけというのが、どうなっているのかなということをお聞きいたします。

○会長

ボランティアの件でございますけれども。

○事務局

どの位の人がいらっしゃるかという件ですが、中央図書館の例では、平成27年度は、ブックスタートボランティアは100人ぐらい登録があり、20人ぐらい活動していただいております。

読み聞かせボランティアは、今、2人ほど来ていただいております。

排架ボランティアは、50人の登録があり、補修ボランティアは、27人の登録がございます。

図書館では、市民とともに心豊かな人づくりを進める図書館、というサービス計画での目標を進めていく場合にも、やはり、市民ボランティアの力を借りながら、いろいろな形で図書館に関わってもらい、市民と協働で図書館サービスを進めてい

	くことが課題でございますので、今後は積極的にボランティアの養成に取り組まないといけないと思っております。 ○委員 多分、そうやってボランティアが図書館に入られることで、もっと図書館を応援したいという方が増えてくると思うので、是非うまくできたらいいなと思います。 ○会長 これはサービス計画の中には入ってこないと思うのですが、山口市は市教委というところがあるので、高校に対するサービスというのが、なかなか難しいと思います。 山陽小野田市では、小野田高校がこのたび読書活動で表彰されたということを聞いたのですが、市立中央図書館との連携で、オススの本コーナーとか、夜の図書館とかいろいろなことをしています。それから、図書館まつりのポスターは、小野田高校の生徒さんが描いているそうです。市と県とあると思いますが、子ども読書活動推進事業は18歳以下市民参加ですので、市からはなかなか難しいかもしれませんが、高校を巻き込むようなことも、少し視野に入れていただければと思います。 まだまだあるかとは思いますが、時間になりましたので、次回は10月ということで、それでは、第1回の山口市立中央図書館協議会を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。 ○事務局（中央図書館長） 本日も皆様から、貴重な御意見をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。これからの図書館運営にしっかりと反映させ、6館で連携して図書館サービスの充実に取り組んでまいりますので、今後も皆さんの力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。
	山口市立中央図書館 TEL 083-901-1040